



TITLE:

他動調的「VNする」の意味分布： 韓国語との対照を中心に

AUTHOR(S):

金, 良宣

CITATION:

金, 良宣. 他動調的「VNする」の意味分布: 韓国語との対照を中心に. 言語科学論集 2009, 15: 103-118

ISSUE DATE:

2009-12

URL:

<https://doi.org/10.14989/141349>

RIGHT:

他動詞的「VNする」の意味分布

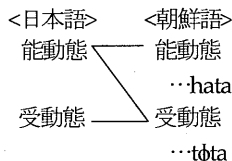
—韓国語との対照を中心に—

きむ やんそん
金 良宣

1. はじめに

1.1 研究目的

日本語の「VN する」だけを対象とする先行研究としては影山(1993)、平尾(1995)、小林(1997)、松岡(2004)、金英淑(2004)等が、日韓対照研究としては生越(1982, 2001)、鷺尾(1998, 2001)、安平鎬・張根壽(2001)等が挙げられる。安平鎬・張根壽(2001)では「一字漢字語+する」についての綿密な分析を試みており、生越(1982: 54-55)では次のように日本語と韓国語の受動態と能動態の相違及び「hata」「tɕta」の対応関係を提示している。¹



<日本語と朝鮮語の対応の形>

- I. 日本語スル形 —— 朝鮮語hata形
欠席する …… 欠席hata
開催する …… 開催hata など
- II. 日本語スル形 —— 朝鮮語tɕta形
感染する …… 感染tɕta
判明する …… 判明tɕta など
- III. 日本語サレル形 —— 朝鮮語tɕta形
開催する …… 開催tɕta
発行する …… 発行tɕta など

しかし、韓国語の「受動態」は「tɕta」の他にも「당하다(danghada)」等多様であり、「II.日本語スル形—朝鮮語 tɕta 形」に属している「判明 tɕta」の場合は「doeda」だけでなく「hata」にも対応できる。勿論これらの研究は両言語の「する」と「하다(hada)/되다(doe-da)」の全体的輪郭を把握するためには有用な結果を提示しているが、研究対象が膨大なため学習者に対する具体的かつ実用的な説明にまでは至っていないように思われる。

一方、研究対象を限定し、学習に有効な結果の提示を試みている先行研究としては、使用頻度の最も高い二字漢字語の中でも学習時の必須語彙といえる二字漢字語だけを研究対象としている金良宣(2006, 2007a, 2007b, 2007c, 2008)が挙げられる。金良宣(2006)では、二字漢字語(VN)を国際交流基金(2002)の『日本語能力試験出題基準(改訂版)』から1,242語抽出し²、韓国語との対応により次のように大分類し各グループの特徴を提示している。

- ① 「VN する」≡ 「VN-hada」 「VN-doeda」 (A グループ)
- ② 「VN する」≡ 「VN-hada」 (B グループ)
- ③ 「VN する」≡ 「VN-doeda」 (C グループ)
- ④ 「VN する」≠ 「VN-hada」 「VN-doeda」 (D グループ)

金良宣(2007a)では、辞書には「hada」にだけ対応していると説明されているが、実生活では「doeda」にも対応している場合(B-2 グループ)を中心に分析している。また、金良宣(2007b)では「hada」にだけ対応する場合(B-1 グループ)を、金良宣(2008)では「hada」「doeda」の両方に対応する場合(A グループ)を重点的に検討している。さらに金良宣(2007c)では4つの各グループの特徴についての比較及び、日本語学習者の誤用を防ぐための案を提示している。

結局、金良宣は、二字漢字語(VN)につく韓国語「하다」が日本語「する」と1:1では対応しないため起りやすい日本語学習者の誤用を解消することを目的とした研究であったと言える。そのため「する」と「hada/doeda」の対応関係だけに焦点を合わせたのが、二字漢字語(VN)自体の個別の意味を看過しているのではないか、という問題点が指摘できよう。例えば、次の(1)～(4)のように類似している意味を表す語の所属がお互いに異なるという矛盾についての具体的な説明が行われていないのである。

- (1) 対処する(B-1) vs. 応対する(B-2) vs. 相対する, 対応する(A)
- (2) 感心する, 痛感する(B-1) vs. 感激する, 感動する, 共感する(B-2)
- (3) 成長する(B-1) vs. 育成する, 成育する, 生育する, 発育する(A)
- (4) 就業する(B-2) vs. 就職する(A)

そこで、本稿では、以上の問題点を解消するための基盤を構築するために次の2つの研究目的を達成したい。第一に、4つのグループの意味成分を明確にする基礎段階として、まず、「hada」にだけ対応する場合(B-1 グループ)の二字漢字語(VN)を類似カテゴリー別に小グループ化し、B-1 グループの全体的な意味分布を把握する。これにより、B-1 グループが全般的にどのような意味を持っているのか、どのような場面で主に使われるのかを学習者が簡単に思い浮かべられようなヒントを提示したいのである。B-1 グループの全体的なイメージ形成に役立てたい。これは、今後他のグループ(B-2, A)との比較研究の根拠として活用できる。また、今井・針生(2006: 238-239)では、子供の心的語彙体系(“メンタルレキシコン”)を外国語学習に活用することを次のように提案しているが、これは今後日本語及び韓国語の学習にも活用できると思われる。

- a. 外国語の単語の意味をばらばらに学習するのではなく、同じ意味領域に属する単語を一度に学習するという方法。
- b. その言語のその意味領域における分類基準は母語とどう違うのかをトップダウンに教えてしまう。(無自覚に、自分がなじんだ母語の概念で外国語を理解するのではなく、違った基準で概念を切り分ける言語とつきあいながら、自分をとらえている母語の概念枠組みに敏感になることも実は外国語学習においては重要なことなのではないか。)

第二に、日韓国語の他動性 VN の意味分布の比較を試みたい。小林(1997)で提示している日本語の他動性を表す「二字漢字動名詞」の意味分布と比較できる資料を提示することにより、日韓対照言語学の基礎資料として活用できればと思う。

1.2. 研究対象及び方法

『日本語能力試験出題基準(改訂版)』から抽出した「する」のつく二字漢字語(VN)1,242語の中から、韓国語「hada」とだけ対応の結果、259語を収集する。但し、国立国語院の韓国語標準大辞典には掲載されているが、用例が見つからない4語(「参上hada」「選考hada」「用意hada」「平方hada」)と、日韓両国語で意味の違う2語(「工夫hada」「用心hada」)を除いた252語³だけを本稿の研究対象とする。以下この252語をB-1グループと称する。

表1: B-1グループのリスト (252語の一部)

握手	意味	隠居	引退	運動	営業	演技	往診	応接	介護
会合	外出	概論	会談	概論	会話	歓迎	看護	観光	感謝
感心	乾杯	看病	帰郷	棄権	起床	帰宅	起伏	希望	休学
休憩	求婚	給食	休息	休養	寄与	禁煙	勤務	勤労	空想
苦心	工夫	経験	警告	警備	下車	下宿	化粧	決意	結婚
決算	決心	欠席	決断	原因	見学	兼業	研修	儉約	講演
航海	抗議	貢献	交際	行進	抗争	後退	告白	再会	在学
裁縫	作文	雑談	参上	散歩	自衛	司会	嗜好	自殺	支持
自首	自習	辞退	実感	失敗	失望	質問	失恋	自転	死亡
志望	自慢	写生	借金	私有	集金	修学	就業	襲撃	従事

そして、次の5段階の研究方法を採択する。

- ① B-1グループがどのような意味成分を成しているのかを把握するため、まず252語の二字漢字語(VN)を国立国語研究所(1964)の『分類語彙表』により分類してみる。
- ② 小林(1997)の日本語における他動性の二字漢字語の分布と比較する。
- ③ 但し、『分類語彙表』の分類基準で重複する場合は、本稿の研究対象である、VN自体が行為と密接な関連のある名詞であるため「1.3 人間活動—精神および行為」を優先し、『分類語彙表』の分類基準を最大限に維持しながら類似している意味同士を統合する方法をとる。
- ④ また、『分類語彙表』の分類が細分化されすぎている場合は、使われている場面を考慮する連想により分類を試みる。⁴
- ⑤ B-1グループの意味分布を学習者に分かりやすく提示することを目指す。

2. B-1グループのVNの意味分布

2.1. 『分類語彙表』による分類

『分類語彙表』によれば、まず、本稿のVNは、「1.体の類」である名詞類に属する。この「1.体の類」は5つのグループ、即ち、「1.1 抽象的關係」「1.2 人間活動の主体」「1.3 人間活動—精神および行為」「1.4 生産物および用具」「1.5 自然物および自然現象」に分けられている。そこで本稿では、この5つにより、252語のVNを分類する。ただし、『分類語彙表』には見当たらなかった「走行」「宣教」は外し、250語をその対象とする。

2.1.1. 「1.1 抽象的關係」に属するB-1(41語)

本稿でも『分類語彙表』と同じ分類番号を使って分類した。⁵ その結果、「1.1 抽象的關係」に属するB-1は延べ43語であるが、「1.3 人間活動—精神および行為」と重複する場合(「運動」「通勤」の2語を「→」で移動させると、41語である。

但し、「抽象的關係」という総称の意味が不明確であり、以下の(2)因果、(3)異動、(4-0)存在、(4-1)滞在、(7-1)回転・動揺など、(12)位置・地点・場合、(14)玉・凸凹・うず・しわなど、(15)和・差・比・率など、の項目以外がなぜ「抽象的關係」を表すのか疑問である。そこで、動作性の強いVNの特徴上、「1.3 人間活動—精神および行為」に含めた方が妥当ではないかと思われる場合(14語)は「→」によって示した。

- (1)“1.104 本体(1語)”：代理
- (2)“1.112 因果”(1語)：原因
- (3)“1.1120 異動”(1語)：相違
- (4-0)“1.1240 存在”(3語)：存在, 自立, 中立
- (4-1)“1.1242 滞在”(1語)：滞在
- (5)“1.11251 除去”(1語)：棄権
- (6)“1.1505 開始・終了”(1語)：終了
- (7-0)“1.1510 動き”(0語)：運動 → スポーツへ
- (7-1)“1.1511 回転・動揺など”(2語)：自転, 振動
- (7-2)“1.1513 固定・起立・転倒など”(1語)：着席
- (8-0)“1.1521 移動・発着”(3語)：転校 → 学事へ
転居 → 住へ
先着
- (8-1)“1.1522 通行”(2語)：通行, 直通
- (8-2)“1.1525 導き・追い・逃げなど”(1語)：逃走 → 競争・戦争へ
- (8-3)“1.1526 進退”(3語)：進行, 進出
後退 → 競争・戦争へ
- (8-4)“1.1527 上り下り”(3語)：登校 → 学事・兵事へ
上下, 上京
- (8-5)“1.1528 往復”(2語)：帰京, 帰宅
通勤 → 勤務・労働へ
- (9-0)“1.1530 出入り”(6語)：入場
外出 → 住へ
入院, 退院 → 医療へ
脱出, 侵入 → 競争・戦争へ
- (9-1)“1.1533 包み・被いなど”(1語)：潜水 → スポーツへ
- (10)“1.1541 乗り降り・浮き沈み”(2語)：乗車, 下車
- (11)“1.1562 圧迫・抵抗”(2語)：抵抗, 反抗 → 競争・戦争へ
- (12)“1.160 位置・地点・場合”(1語)：位置
- (13)“1.166 新旧・遅速”(1語)：遅刻 → 学事・兵事へ
- (14)“1.183 玉・凸凹・うず・しわなど”(1語)：起伏
- (15)“1.1970 和・差・比・率など”(1語)：比例

2.1.2. 「1.2 人間活動の主体」に属するB-1(3語)

『分類語彙表』により分類した結果、「人間活動の主体」に属する B-1 は 3 語である。しかし、「人間活動の主体」と次の 2.1.3 「人間活動—精神および行為」との区分が不明瞭であり、二字漢字語(VN)の動作性を考慮すると、2.1.3 に含めるのがより妥当であると思われ、「→」により移動を示した。

- (1) “1.210 家族”(1語): 隠居 → 住(韓国語) or 仕事(日本語)へ
- (2) “1.266 宅・宿・教室など”(1語): 下宿 → 住へ
- (3) “1.280 同盟・団体(1語)”: 同盟 → 競争・戦争へ

2.1.3. 「1.3 人間活動—精神および行為」に属するB-1(201語)

「1.3 人間活動—精神および行為」には、延べ 201 語の VN が属している。とくに「学事・兵事」「仕事」「医療」「競争・戦争」などに多数が属している。ただ、(37)「請求」の項目になぜ「求婚」が、(47)「土木」になぜ「発電」が属しているのか常識的に理解しがたい。これらの場合は「？」により示す。

- (1-0) “1.3001 感覚”(4語): 同感, 実感, 痛感, 関心
- (1-1) “1.3002 疲労・睡眠など”(4語): 疲労, 休息, 睡眠, 冬眠
- (2) “1.3011 苦悩・悲哀・恐れ・怒りなど”(3語): 憤慨, 悲観, 楽観
- (3-0) “1.3020 対人感情(好悪など)”(5語): 嗜好, 同情, 恋愛, 失恋, 恐縮
- (3-1) “1.3021 対人感情(敬意・信頼など)”(3語): 尊敬, 感謝, 信用
- (4) “1.3030 表情(顔つき・泣き笑いなど)”(1語): 微笑
- (5-0) “1.3040 自我・信念・努力・忍耐など”(3語): 苦心, 努力, 奮闘
- (5-1) “1.3042 欲望・期待など”(4語): 希望, 待望, 失望, 絶望
- (5-2) “1.3043 願望・覚悟・祝賀など”(3語): 志望, 念願, 祝賀
- (5-3) “1.3044 態度・反省など”(1語): 反省
- (5-4) “1.3047 信仰・宗教”(1語): 信仰
- (6-1) “1.3050 練習・まね・学習”(5語): 修行
自習, 予習, 修学 → 学事・兵事へ
研修 → 仕事へ
- (6-2) “1.3051 習慣・記憶・記念”(1語): 経験
- (7-0) “1.3064 計算・しんしゃく・測定・評価”(1語): 決算
- (7-1) “1.3065 研究・実験・調査・検査など”(2語): 探検
専攻 → 学事・兵事へ
- (7-3) “1.3066 想像・推測・判断・決心など”(4語): 空想, 決断, 決心, 決意
- (7-4) “1.3067 解決・決定・きまり”(1語): 審判 → 裁判へ
裁判 → 裁判へ
- (8-1) “1.3070 意味・問題・趣旨・大綱など”(1語): 意味
- (8-2) “1.3072 論理・うそ・誤り・訂正など”(1語): 無理
- (9-0) “1.3090～1 見聞・見・観・覧など”(2語): 拝見
見学 → 学事・兵事へ

- (9-1) "1.3094 聞き" (1語): 聴講 → 学事・兵事へ
- (10) "1.3114 符合" (1語): 信号
- (11-0) "1.3120 発言・沈黙" (1語): 断言
- (11-1) "1.3122 通信" (1語): 電話
- (12-0) "1.3131 談話" (5語): 講演, 会話, 対談, 対話, 雑談
- (12-1) "1.3132 問答" (3語): 問答, 質問, 正解
- (12-2) "1.3133 会談・論議" (0語): 会談 → 交渉へ
- (12-4) "1.3135 言論" (1語): 代弁
- (12-5) "1.3136 説明" (2語): 概説, 概論
- (13-0) "1.3240 宣言・発表" (2語): 声明, 披露
- (13-1) "1.3141 報告・申告" (2語): 自首, 告白
- (13-2) "1.3142 うわさ" (1語): 評判
- (14-0) "1.3150 読み書き・読み" (1語): 読書
- (14-1) "1.3153 記名など" (1語): 署名
- (15) "1.320 創作・著述" (1語): 作文
- (16-0) "1.3310 人生・祝福" (1語): 避難 → 競争・戦争へ
- (16-1) "1.3311 処世" (1語): 出世 → 仕事へ
- (16-2) "1.3312 出処進退" (4語): 就任, 入社, 引退, 就職 → 仕事へ
- (17) "1.332 勤務・労働" (7語): 勤務, 出張, 従事, 出勤, 休憩, 通勤
- (18-0) "1.3331 住" (6語): 逃亡 → 競争・戦争へ
同居, 別居, 宿泊, 起床, 徹夜
- (18-1) "1.3332 食" (2語): 乾杯
給食 → 学事・兵事へ
- (18-2) "1.3333 衣" (2語): 盛装, 覆面
- (18-3) "1.3334 保健・衛生" (4語): 休養, 化粧, 入浴, 洗面
- (19) "1.334 学事・兵事" (7語): 進学, 卒業, 休学, 通学, 在学, 留学, 受験
- (20) "1.335 慶弔" (2語): 結婚, 離婚
- (21-0) "1.3371 旅・行楽" (4語): 旅行, 観光, 散歩, 登山
- (21-1) "1.3372 芸" (1語): 吹奏
- (21-2) "1.3374 スポーツ" (3語): 運動, 体操, 水泳
- (22-1) "1.3390 身振り" (1語): 握手
- (22-2) "1.3393 手の動作" (1語): 拍手
- (23) "1.343 行為" (1語): 冒険 → 旅・行楽へ
- (24) "1.347 成功・失敗" (1語): 成功 → 仕事へ
- (25) "1.3501 争い" (2語): 紛争, 抗争 → 競争・戦争へ
- (26-0) "1.3510 集会" (1語): 集会
- (26-1) "1.3511 出欠" (1語): 欠席 → 学事・兵事へ
- (27-0) "1.3520 対面・訪れ・招き" (5語): 面会, 面接, 対面, 再会, 訪問
- (27-1) "1.3521 応接・送迎" (3語): 応接, 歓迎, 送別
- (28-0) "1.3531 交渉" (3語): 相談, 会談, 抗議
- (28-1) "1.3532 賛成・許容" (1語): 辞退
- (29-0) "1.3540 協力・参加" (1語): 提携

- (29-1) "1.3541 奉仕" (2語): 寄与, 貢献
(30) "1.3551 競争・戦争" (2語): 戦争, 戦闘
(31) "1.356 攻防" (4語): 襲撃, 防衛, 自衛, 挑戦 → 競争・戦争へ
(32) "1.357 勝敗" (3語): 勝利, 優勝, 敗北 → 競争・戦争へ
(33) "1.3560 支配・政治・革命" (2語): 司会 → 仕事へ
独裁, 反乱 → 競争・戦争へ
(34-0) "1.31610 国務" (1語): 警備 → 仕事へ
(34-1) "1.31611 裁判" (1語): 裁判
(35-0) "1.31640 教育" (2語): 助言, 授業 → 学事・兵事へ
(35-1) "1.31641 訓諭" (3語): 忠告, 注意, 警告
(36) "1.365 救護・世話" (3語): 応援
看護, 看病 → 医療へ
(37) "1.366 請求" (1語): 求婚?
(38) "1.367 命令・制約" (2語): 指令
禁煙 → 保健・衛生へ
(39-0) "1.3680 待遇" (1語): 待遇
(39-1) "1.3683 脅迫・遇弄・中傷" (1語): 中傷
(40) "1.3701 所有" (2語): 私有, 貯金
(41) "1.3670 取引" (1語): 貿易 → 仕事へ
(42) "1.3771 受領・送付" (1語): 受領
(43) "1.378 貸借" (2語): 借金, 弁償
(44) "1.379 貧富" (1語): 儉約
(45) "1.3800 仕事" (1語): 兼業
(46) "1.3811 飼養・採取" (1語): 牧畜 → 仕事へ
(47) "1.3822 土木" (1語): 発電?
(48-0) "1.3831 医療" (5語): 診療, 往診, 診察, 手術, 注射
(48-1) "1.3832 出張・興行" (2語): 出演, 主演 → 仕事へ
(49-0) "1.3840~1 家事・裁縫" (1語): 裁縫 → 仕事へ
(49-1) "1.3842 洗濯など" (1語): 水洗 → 保健・衛生へ
(49-2) "1.3843 炊事" (1語): 炊事 → 仕事へ
(50-0) "1.3850 設備・作業・手当て・処理" (3語): 冷蔵, 保守, 対処
(50-1) "1.3852 使用" (1語): 専用

2.1.4. 「1.5 自然物および自然現象」に属するB-1 (5語)

B-1は5語が「1.5 自然物および自然現象」に属している。但し、「自然および自然現象」という総称と、「自殺」「負傷」が関連しているのが疑問である。「負傷」はむしろ2.1.3の「競争・戦争」の方がより妥当のように思われるため、それぞれ「?」「→」で示した。

- (1) “1.503 音” (1語): 反響
- (2) “1.581 生死・生” (2語): 野生, 成長
- (3) “1.582 死” (1語): 自殺?
- (4) “1.584 健康” (1語): 負傷 → 競争・戦争へ

2.1.5. 要約

B-1を『分類語彙表』に基づいて分類した以上の結果と、小林(1997:113)の「他動詞用法しかもたない二字漢字動名詞」を『分類語彙表』に基づいて分類した結果とを比較すると、次の<表 2>のようになる。勿論、金良宣(2007b)でも言及したように「hada」にだけ対応するVNが100%他動詞の用法しか持っていないとは言えない。また、調査対象の数的な相違もあるが、「hada」は主に他動詞であり、ランダム式の統計の持つ意味も考慮すると、<表 2>の結果はある程度有意義であると言える。

表2: 『分類語彙表』による日韓の他動詞的VNの分布比較

		日本語(小林)	韓国語
1. 体の類	1.1 抽象的關係	15.8% (327語)	16% (41語)
	1.2 人間活動の主体	0.4% (9語)	1% (3語)
	1.3 人間活動—精神および行為	81.9%(1693語)	81%(201語)
	1.4 生産物および用具	0.1% (3語)	0%
	1.5 自然物および自然現象	1.5% (30語)	2% (5語)
3. 相の類(形容詞の仲間)		0.2% (4語)	0%
		2066語	250語

<表 2>からわかるように、日本語に表れる「1.4 生産物および用具」と「3. 相の類」のVNは韓国語には存在しない。「3. 相の類」の場合は、金良宣(2006)で指摘した韓国語には存在しない「D グループ」がその原因と言える。一方「1.4 生産物および用具」の場合は現段階ではその理由が分らない。『分類語彙表』の分類基準及び名称の不明な点が一因ではないかと思われる。

そこで、本稿では、可能な限り『分類語彙表』の分類意図を損なわない水準での修正を試みた。その結果は次の<表 3>である。『分類語彙表』の具体的な修正部分は次の4つにまとめることができる。

- ① 「1.1 抽象的關係」に属するB-1は41語であり、約16%に該当する。その中で意味上「1.3 人間活動—精神および行為」に入るべき14語(「転校」「転居」「逃走」「後退」「登校」「外出」「入院」「退院」「脱出」「侵入」「潜水」「抵抗」「反抗」「遅刻」)を「1.3 人間活動—精神および行為」に入れる。その結果、「抽象的關係」を表すB-1は27語になる。
- ② 「1.2 人間活動の主体」を表すB-1は3語であり、約1%に当たる。意味上「1.3 人間活動—精神および行為」に入るべきVNを「1.3 人間活動—精神および行為」に入れると、「1.2 人間活動の主体」を表すB-1はないということになる。
- ③ 「1.5 自然物および自然現象」を表すB-1は5語であり、約2%に当たる。しかし、「自然物および自然現象」というカテゴリーの名称と「自殺」「負傷」が不自然であるため、一応「負傷」を「1.3 人間活動—精神および行為」の方に移動させると、「1.5 自然物および自然現象」は4語になる。なお、2.3 では「自殺」及び『分類語彙表』に掲載されていない「走行」「宣教」をも含めた分類を試みる。
- ④ 本調査のB-1と最も密接な項目は「1.3 人間活動—精神および行為」と言える。延べ201語の最大項目である。①②③で言及した他の項目からのB-1を合わせると、延べ219語になる。他項目からの編入の場合はイタリック体にしてある。とくに多数のVNが入っている「学事・兵事」「仕事」「医療」「競争・戦争」等はB-1の全体的な意味を把握するために役立つ項目であろう。

表3: 『分類語彙表』によるB-1の分類

抽象的關係 (27)	本体	代理	1
	因果	原因	1
	異動	相違	1
	存在/ 滞在	存在, 自立, 中立/ 滞在	3/ 1
	除去	棄権	1
	開始・終了	終了	1
	回転・動揺/ 固定・起立・転倒など	自転, 振動/ 着席	2/ 1
	移動・発着	先着	1
	通行	通行, 直通	2
	進退	進行, 進出	2
	上り下り	上下, 上京	2
	往復	帰京, 帰宅	2
	出入り	入場	1
	乗り降り・浮き沈み	乗車, 下車	2
	位置・地点・場合	位置	1
	玉・凸凹・うず・しわなど	起伏	1
	和・差・比・率など	比例	1
人間活動—精 神および行為 (219)	感覚/ 疲労・睡眠など	同感, 実感, 痛感, 関心/ 疲労, 休息, 睡眠, 冬眠/ 4/ 4	
	苦悩・悲哀・恐れ・怒りなど	憤慨, 悲観, 樂觀	3
	対人感情(好悪など)/ 対人感情(敬意・信頼など)	嗜好, 同情, 恋愛, 失恋, 恐縮/ 尊敬, 感謝, 信用	5/ 3
	表情(顔つき・泣き笑いなど)	微笑	1
	自我・信念・努力・忍耐など/ 欲望・期待など/ 願望・覚悟・祝賀など/ 態度・反省など/ 信仰・宗教	苦心, 努力, 奮闘/ 希望, 待望, 失望, 絶望/ 志望, 念願, 祝賀/ 反省/ 信仰	3/ 4/ 3/ 1/ 1
	練習・まね・学習/ 習慣・記憶・記念	修行, 研修/ 経験	2/ 1
	計算・しんしゃく・測定・評価/ 研究・実験・調査・検査など/ 決算/ 探検, 専攻/ 1/ 2/		

想像・推測・判断・決心など	空想, 決断, 決心, 決意/	4/
意味・問題・趣旨・大綱など/ 論理・うそ・誤り・訂正など	意味/ 無理	1/ 1
見聞・見・観・覧など/ 聞き	拝見/ 聴講	1/ 1
符合	信号	1
発言・沈黙/ 通信	断言/ 電話	1/ 1
談話/ 問答/ 言論/ 説明	講演, 会話, 対談, 対話, 雑談/ 問答, 質問, 正解/ 代弁/ 概説, 概論	5/ 3/ 1/ 2
宣言・発表/ 報告・申告/ うわさ	声明, 披露/ 自首, 告白/ 評判	2/ 2/ 1
読み書き・読み/ 記名など	読書/ 署名	1/ 1
創作・著述	作文	1
处世/ 出处進退	出世/ 就任, 入社, 引退, 就職	1/ 4
勤務・労働	勤務, 勤労, 出張, 従事, 出勤, 休憩, 通勤	7
住/ 食/ 衣/ 保健・衛生	居, 別居, 宿泊, 起床, 徹夜 外出, 下宿 乾杯/ 盛装, 覆面/ 休養, 化粧, 入浴, 洗面, 禁煙, 水洗	7/ 1/ 2/ 6
学事・兵事	進学, 卒業, 休学, 通学, 在学, 留学, 受験, 遅刻, 登校, 自習, 予習, 修学, 専攻, 見学, 聴講, 給食, 欠席, 助言, 授業	19
慶弔	結婚, 離婚	2
旅・行楽/ 芸/ スポーツ	旅行, 観光, 散歩, 登山, 冒険/ 吹奏/ 運動, 体操, 水泳, 潜水	5/ 1/ 4
身振り/ 手の動作	握手/ 拍手	1/ 1
集会	集会	1
対面・訪れ・招き/	面会, 面接, 対面, 再会, 訪問/	5/

	応接・送迎	応接, 歓迎, 送別	3
	交渉 賛成・許容	相談, 会談, 抗議/ 辞退	3/ 1
	協力・参加/ 奉仕	提携/ 寄与, 貢献	1/ 2
	競争・戦争	戦争, 戦闘, 逃走, 後退, 脱出, 侵入, 抵抗, 反抗, 同盟, 避難, 逃亡, 紛争, 抗争, 襲撃, 防衛, 自衛, 挑戦, 勝利, 優勝, 敗北, 独裁, 反乱, 負傷	23
	裁判	裁判, 審判	2
	訓諭	忠告, 注意, 警告	3
	救護・世話	応援	1
	請求	求婚	1
	命令・制約	指令	1
	待遇/ 脅迫・遇・中傷	待遇/ 中傷	1/ 1
	所有	私有, 貯金	2
	受領・送付	受領	1
	貸借	借金, 弁償	2
	貧富	儉約	1
	仕事	兼業, 隠居, 研修, 出世, 就任, 入社, 引退, 就職, 成功, 司会, 警備, 貿易, 牧畜, 出演, 主演, 裁縫, 炊事	17
	土木	発電	1
	医療	診療, 往診, 診察, 手術, 注射, 入院, 退院, 看護, 看病	9
	設備・作業・手当て・処理	冷蔵, 保守, 対処	3
	使用	専用	1
自然物および 自然現象(4)	音	反響	1
	生死・生	野生, 成長	2
	死	自殺	1

2.2. 場面中心の連想による分類

2.1 で『分類語彙表』の分類基準により B-1 を分類した結果、日本語と韓国語の他動性の VN の意味分布を比較することはできた。しかし、『分類語彙表』の分類は細分化しているし、またカテゴリーの名称や分類基準に不明瞭な点があるため、本稿の研究対象である B-1 グループの全体的な意味を把握するには幾らかの工夫が必要である。

そこで、本節では『分類語彙表』の分類基準に基づいたうえで、各VNの使用場面を中心とした連想による意味分類を試みたいと思う。結論から言うと、B-1は12個のカテゴリーにより分類できる。つまり、B-1を「医療・病院」「心理」「勉強・学校」「仕事・会社」「結婚・住居」「話・社交」「対立・戦争」「判断・裁判」「趣味」「移動・変化」「その他」に分類するのである。その具体的な手順は次のようである。

- ①医療・病院: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「医療」を基準に、医療現場で連想できるVNを集めた。
- ②心理: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「苦悩・悲哀・恐れ・怒りなど」「自我・信念・努力・忍耐など」「欲望・期待など」「願望・覚悟・祝賀など」「態度・反省など」「信仰・宗教」「想像・推測・判断・決心など」のように、主に人間の内面に生じるという意味を持っているVNを「心理」という項目で統合した。
- ③勉強・学校: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「学事・兵事」を基準にした。但し、「学事・兵事」より広い範囲のカバーできる「勉強・学校」というカテゴリー名に直し、関連しているVNを集めた。
- ④仕事・会社: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「勤務・労働」と「仕事」をあわせ、「仕事・会社」というカテゴリー名にした。
- ⑤結婚・住居: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「住」「慶弔」及び関連しているVNを集めた。
- ⑥判断・裁判: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「裁判」「貸借」「脅迫・遇・中傷」などと関連しているVNを集めた。
- ⑦競争・戦争: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「争い」「攻防」「勝敗」「支配・政治・革命」などと関連しているVNを集めた。
- ⑧話・社交: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「談話」「身振り」「手の動作」「対面・訪れ・招き」「応接・送迎」など、他人との関係を重視する場合をまとめた。
- ⑨保健・衛生: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「疲労・睡眠など」を「保健・衛生」という上位概念を用いたカテゴリー名にし、連想できるVNを集めた。
- ⑩趣味: 『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「旅・行楽」「芸」「スポーツ」などを統合した。
- ⑪移動・変化: 主に『分類語彙表』の「抽象的關係」及び、可視的に移動が認知されやすいVNを集めた。
- ⑫その他: 主に『分類語彙表』の「人間活動—精神及び行為」の「設備・作業・手当て・処理」「自然物および自然現象」などを統合した。
- ⑬『分類語彙表』には見当たらなかった「走行」「宣教(便宜上下線)はそれぞれ「移動・変化」「その他」に入れた。(「信仰」は「心理」に入れたが、「宣教」は次元が違うはずだから。)
- ⑭「隠居(便宜上イタリック体)は、本稿では日本語の場合を想定し、「仕事・会社」に入れたが、韓国語の場合は「隠遁」の意味が強いため、むしろ「結婚・住居」の方が自然であろう。

以上をまとめると、次の<表4>のようになる。

表4: 使用場面の連想によるB-1分類

医療・病院	往診, 看護, 看病, 手術, 診察, 診療, 退院, 注射, 入院, 面会	10
心理	感謝, 感心, 希望, 恐縮, 空想, 苦心, 決意, 決心, 決断, 実感, 失望, 志望, 自立, 信仰, 絶望, 自慢, 尊敬, 待望, 痛感, 同感, 同情, 念願, 反省, 悲観, 憤慨, 楽観	26

勉強・学校	概説, 概論, 休学, 給食, 欠席, 見学, 講演, 在学, 作文, 自習, 修学, 授業, 受験, 進学 , 正解, 専攻, 専修, 卒業, 遅刻, 聴講, 通学 , 転校 , 登校 , 努力, 読書, 予習, 留学	27
仕事・会社	隠居, 引退 , 寄与, 休憩, 勤務, 勤労, 警備, 決算, 兼業, 研修, 貢献, 裁縫, 辞退 , 失敗, 従事, 就任, 主演, 出演, 出勤 , 出世, 出張 , 指令, 信用, 炊事, 成功, 送別, 待遇, 退職 , 通勤 , 提携, 徹夜, 入社 , 疲労, 貿易 , 面接, 牧畜, 領収	37
結婚・住居	求婚, 下宿, 結婚, 告白, 同居, 失恋, 祝賀, 転居, 披露, 別居, 離婚, 恋愛	12
話・社交	握手, 応援, 応接, 会合, 会談, 会話, 歓迎, 乾杯, 化粧, 再会, 雑談, 司会, 集会, 助言, 声明, 盛装, 相談, 対談, 対面, 対話, 忠告, 電話, 拝見, 拍手, 訪問, 微笑	26
競争・戦争	棄権, 警告, 抗議, 抗争, 後退 , 自衛, 支持, 襲撃, 出場 , 勝利, 侵入 , 戦争, 戦闘, 対処, 脱出 , 中立, 挑戦, 抵抗, 逃走 , 逃亡 , 同盟, 独裁, 敗北, 反抗, 反乱, 避難 , 負傷, 紛争, 奮闘, 防衛, 優勝	31
判断・裁判	自殺 , 自首, 質問, 借金, 代弁, 断言, 中傷, 審判, 裁判, 注意, 評判, 覆面, 弁護, 弁償, 問答	15
保健・衛生	休養, 禁煙, 睡眠, 水洗, 洗面, 冬眠, 入浴, 養護	8
趣味・余暇	運動, 外出, 観光, 休息, 経験, 節約, 散歩, 水泳, 嗜好, 修行, 宿泊, 署名, 吹奏, 潜水, 滞在, 体操, 代理, 探検, 貯金, 登山, 冒険, 旅行	22
移動・変化	帰京, 起床, 帰宅, 下車, 進行, 信号, 死亡, 終了, 上京, 上下, 乗車, 進出, 成長, 先着, 走行 , 着席, 通行, 入場, 反響, 比例	20
その他	位置, 意味, 起伏, 原因, 自転, 私有, 振動, 宣教 , 専用, 相違, 存在, 抽象, 直通, 発電, 保守, 無理, 野生, 冷蔵	18

無論、二字漢字語(VN)自体が動作性を表わすため、例えば、「医療」の「往診」「退院」「入院」、「勉強・学校」の「進学」「通学」「転校」「留学」、「仕事・会社」の「引退」「辞退」「出勤」「出張」「退職」「通勤」「入社」「貿易」、「競争・戦争」の「後退」「出場」「侵入」「脱出」「逃走」「逃亡」「避難」(便宜上太字体)等が「移動・変化」と重なる。しかし、本稿では、まず B-1 グループがどのような意味分布を成しているのか、全体的にどのような意味として主に使われているのか、という B-1 グループの全体像を学習者がイメージしやすくすることを第一の目的としているため、連想による小カテゴリー意味分類を試みたのである。今後、より多角的な側面(個人の言語背景の特徴や共同体の文化的相違など)を考慮した分類基準が再検討できればと思う。

3. おわりに

本稿では、韓国語「하다(hada)」にだけ対応する日本語の動作性名詞(VN)である二字漢字語がどのような意味分布を成しているのかについて考察するために、『日本語能力試験出題基準(改訂版)』から抽出した「하다(hada)」にだけ対応する 252 語の VN の意味分布を把握した。そのために 2 つの研究手法—『分類語彙表』による分類と、『分類語彙表』に基づいた使用場面中心の連想法を加えた分類—をとった。まず、『分類語彙表』による分類の結果、「抽象的關係」が 16%、「人間活

動の主体」が1%、「人間活動—精神及び行為」が81%、「自然物および自然現象」が2%をそれぞれ占める、ということが分かった。これは2つの側面で意味がある。第一に、圧倒的に「人間活動—精神及び行為」を表す語が多数を占めていることから、本稿の研究対象の二字漢字語が動作性名詞であることが再確認できるのである。第二に、同じ漢字文化圏の中国語とは違って、韓国語と日本語は他動詞 VN の分布が非常に類似していることが分かり、韓日間の漢字語使用の類似性が確認できるのである。

しかし、『分類語彙表』による分類は大変細分化しているため、韓国語「하다(hada)」にだけ対応する252語のVNの全体的な意味を把握するのは難しい。そこで本稿では、『分類語彙表』による分類の結果、語数の多い項目を基準に、使用場面を中心とした連想法により大きく12グループ（医療・病院、心理、勉強・学校、仕事・会社、結婚・住居、話・社交、対立・戦争、判断・裁判、趣味、移動・変化、その他）に分類した。その結果、韓国語「하다(hada)」にだけ対応する252語のVNは、「仕事・会社」に一番多く分布し、次に「競争・戦争」>「勉強・学校」>「心理」「話・社交」>「趣味」>「移動・変化」>「判断・裁判」>「結婚・住居」>「医療・病院」>「保健・衛生」の順に分布していることが分かった。これは、「하다(hada)」と「되다(doeda)」の両方に対応できるVNとの比較の際の基礎資料となり、また、日本語及び韓国語学習者の学習にも役立つであろう。但し、言語とは個人の言語背景及び共同体の文化的相違等による多様な要素が結合している変化しつつある生命体であるため、今後多角的な側面からの考察により分類基準が再検討できればと思う。

注

1. 本稿では現在の韓国語のローマ字表記法に従い、生越(1982)の韓国語「hata」「t̚ɸta」を引用する以外は「hada」「doeda」と表記する。
2. 『日本語能力試験出題基準(改訂版)』に掲載されている二字漢字語のうち「する」のつく場合を「VN」と規定し、日本語母語話者が抽出した。
3. 金良宣(2007b)では、「返却」が辞書と用例の両方で「hada」にだけ対応したため延べ253語であったが、本調査(<http://www.daum.net>(検索日:2009.11.4)のウェブ検索)の結果では、「返却」に「doeda」のつく用例が発見できたため、本稿の研究対象から外し延べ252語を研究対象としたのである。
4. 『分類語彙表』の分類基準は「一つの項目に納めたのは同義類義の語の群であって、自由連想による語群ではない」(p.6)と定義されている。
5. 『分類語彙表』の項目は「一般的総括的な内容を持つ項目は、部分的な内容を持つ項目より先にあげてある。たとえば、(1.57)は身体に関する部分であるが、(1.570)は、(1.571～8)の身体各部位にかんする総記の部分となす」(p.6)という基準によって分類されている。
6. 張又華(京都大学大学院の台湾の留学生)のネイティブチェックによると、中国語は、日本語と韓国語とは違って、本稿の252語のVNの中の半分程がVNとして使われているらしい。なお、中国語の場合、「転校」より「転学」が使われているということであったが、この点は興味深い。韓国語の場合も、「転校」は辞書では「転学」と類似している表現と説明されているが、用例は日本語や日本と関連のある内容に限られているからである。このような日本語の影響を受けている逆輸入の二字漢字語についての研究も今後の課題であろう。

参考文献

- 金良宣. 2006. 「日本語『VN する』と韓国語『VN hada/doeda』の対照」,
『小泉保先生傘寿記念論文集』149-161. 東京:大修館書店.
- 金良宣. 2007a. 「사전에서만 한국어『VN 하다』로 대응하는 일본어『VN する』—
기초적 어휘를 중심으로—(辞典にだけ韓国語『VNhada』に対応する
日本語『VN する』—基礎的語彙を中心に—)」, 『人文研究』53: 195-216.
韓国大邱: 嶺南大学人文科学研究所.
- 金良宣. 2007b. 「한국어『VN 하다』로만 대응하는 일본어『VN する』—
기초적 어휘를 중심으로—(韓国語『VN 하다』にだけ対応する日本語『VN する』—
基礎的語彙を中心に—)」, 『日本語学研究』18: 65-80. 韓国ソウル: 韓国日本語学会.
- 金良宣. 2007c. 「한국어 대응에 의한『2 자한자어(VN)+する』의 4 분류과 그
특성 (韓国語対応による『二字漢字語(VN)+する』)」, 『日本語文学』39:
23-52. 韓国大邱: 日語日文学会.
- 金良宣. 2008. 「韓国語『VN 하다/되다』로 대응하는日本語『VN する』—기초적인
어휘를 중심으로—(韓国語『VNhada/doeda』に対応する日本語『VN する』—
基礎的語彙を中心に—)」, 『日本学報』74(1): 15-36. 韓国ソウル: 韓国日本語学会.
- 安平鎬. 2006. 「능격성(Ergativity)에 관한 한일대조연구 (能格性(Ergativity)に関する
韓日対照研究)」, 『日本学報』66: 79-90. 韓国ソウル: 韓国日本学会.
- 安平鎬・張根壽. 2001. 「『一字漢語+スル』と『一字漢語+하다(hada)』」, 『筑波大学
「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究 研究成果報告書IV別冊 平成
12年度 「하다」と「する」の言語学』53-138. 筑波: アレス.
- 楊高郎. 2006. 「『上昇する』와 같은 유형의『VN する』에 관한 고찰 (『上昇する』
のような類型の『VN する』に関する考察)」, 『日本学報』66: 91-102. 韓国
ソウル: 韓国日本学会.
- 井上優・生越直樹・木村英樹. 2002. 「テンス・アスペクトの比較対照 日本語・朝鮮語・
中国語」, 生越直樹(編)『対照言語学』125-159. 東京: 東京大学出版会.
- 今井むつみ・針生悦子. 2006. 『レキシコンの構築 子どもはどのように語と概念を学んで
いくのか』 東京: 岩波書店.
- 生越直樹. 1982. 「日本語語漢語動詞における能動と受動 —朝鮮語 hata 動詞との対照—」,
『日本語教育』48: 53-65. 東京: 日本語教育学会.
- 生越直樹. 2001. 「現代朝鮮語の하다動詞における하다形と되다形」, 『筑波大学「東西言語
文化の類型論」特別プロジェクト研究 研究成果報告書IV別冊 平成12年度
「하다」と「する」の言語学』1-28. 筑波: アレス.
- 国立国語研究所. 1964. 『分類語彙表』 東京: 秀英出版.
- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』 東京: ひつじ書房.
- 国広哲弥. 1997. 『理想の国語辞典』 東京: 大修館書店.
- 金英淑. 2004. 「VN する」の自他交替と再帰性」, 『日本語文法』4(2): 89-102. 東京: くろ
しお出版.
- 小林英樹. 1997. 「自他両用法をもつ二字漢語動名詞の意味体系における分布」, 『計量国語
学』21(3): 110-114.

- 小林英樹. 2000. 「漢語動名詞の自他」, 『日本語教育』 107: 75-84. 東京: 日本語教育学会.
- 斎賀秀夫. 1997. 「語構成の特徴」, 斎藤倫明・石井正彦(編)『日本語研究資料集第一期第 13 卷 語構成』 24-45. 東京: ひつじ書房.
- 坂倉篤義. 1997. 「語構成序説」, 斎藤倫明・石井正彦(編)『日本語研究資料集第一期第 13 卷 語構成』 7-23. 東京: ひつじ書房.
- 志波彩子. 2005. 「2 つの受身—被動者主役化と脱他動化—」, 『日本語文法』 5(2): 196-212.
- 野村剛司. 1995. 「自動・他動・受身動詞について」, 須賀一好・早津恵美子(編)『日本語研究資料集第一期第 8 卷 動詞の自他』 137-150. 東京: ひつじ書房.
- 平尾得子. 1995. 「VN ガスルと VN スルと VN ラスルーサ変動詞と構文的制約—」, 宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法 (上)』 89-98. 東京: くろしお出版.
- 松岡知津子. 2004. 「複合動詞『～スル』を形成する漢字名詞について」, 『日本語教育』 120: 13-32. 東京: 日本語教育学会.
- 鷺尾龍一. 1998. 「韓国語漢語動詞における動詞選択の問題—『對應하다』, 『對應되다』の場合」, 『先端的言語理論の構築とその多角的な実証 (2・A) COE 形成基礎研究費報告書』
- 鷺尾龍一. 2001. 「하다・되다を日本語から見る」, 『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究 研究成果報告書IV別冊 平成 12 年度 「하다」と「する」の言語学』 27-52. 筑波: アレス.
- 渡辺吉鎔. 1987. 「韓日語文法対照研究の諸問題」, 『日本語学』 6(10): 67-75. 東京: 明治書院.